INGING MOTORSPORT

NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2022

P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Take Free!

Team by INGINGMOTORSPORT

www.inging.co.jp

Today's Race Rd,5

SPORTSLAND SUGO 6.18SAT/19SUN

@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38 号車 ドライバー　坪井 翔

Sena SAKAGUCHI #39

39 号車 ドライバー　阪口 晴南

前進していることを感じた

Yuji TACHIKAWA

監督　立川 祐路



@Race Archive Rd.4 AUTOPOLIS

流れを変えろ

Vol.4

P.MU / CERUMO INGING Race Report Season 2022, Take Free Paper.
©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

INGING MOTORSPORT
NEWS PAPER
SUPER FORMULA 2022
P.MU/CERUMO·INGING
Race Report
Vol.4

P.MU / CERUMO INGING Race Report Season 2022, Take Free Paper. ©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

@Race Archive Rd.4 AUTOPOLIS レースアーカイブ Round.4 オートポリス

予選 5月21日(土) 天候:晴れ 路面:ドライ

4月23日(土)~24日(日)に鈴鹿サーキットで開催された第3戦では、坪井翔が予選7番手と上位を狙う位置につけたものの、不安定な天候に翻弄され、阪口晴南も追い上げ実らず、2台ともにポイント獲得には届かなかったP.MU/CERUMO·INGING。その悔しさを晴らすべく臨んだ第4戦の舞台は、大分県日田市のオートポリス。阿蘇の山並みのなかに設けられた、タイヤに厳しいサーキットだ。開幕から3戦、まだ坪井もポイント獲得が1回のみと、開幕前の好調ぶりをみせられていない。阪口とともに状況を打破するべく、週末に臨んだ。

Q1 坪井のBirthDayAttack



迎えた午後2時 50 分からの公式予選。まずノックアウト予選 Q1 に臨んだのはA組から出走した坪井だ。午前のフリー走行でも2番手につけ、感触も上々だった坪井は、ポールポジション獲得を目指し予選に臨むことになった。まずは一度ユーズドタイヤでコースインした後、ピットに戻りステイ。他のライバルたちがピットアウトするのを見送りながら、最後までコースインを遅らせた。坪井がフリー走行での感触から選択したのは、アウトラップ後の計測1周目でアタックを決める作戦だ。タイヤに厳しいオートポリスだけに、2周目ではアタック終盤が厳しくなる。もちろんアタックを終えたらその時にはチェッカーフラッグが出ているため、チャンスは一度きりだ。坪井は残り3分を切ったところでコースインし、念入りにタイヤを温めていく。しかし、計測2周目でアタックを行ったライバルたちが、コース上に留まっていた。もちろん進路を妨害することなどはないのだが、坪井はライバルたちに引っかかり、ウォームアップが十分でないままアタックに突入することになってしまった。坪井は一度きりのアタックに突入するものの、セクター1ではやはりタイヤの温まりが足りない。セクター2、3としっかりと発熱しタイムを上げたものの、チェッカーを受け記録されたタイムは1分 25 秒 290 というもの。結果はまさかの7番手。Q2 進出を果たせる6番手に届かないまま予選を終えることになってしまった。この日が誕生日だった坪井は「最悪の誕生日です」と悔しがった。一方、続くB組から出走したのは阪口。フリー走行ではトップから 2.458 秒差という深刻な状態だったが、予選までの間に立川祐路監督、アドバイザーの石浦宏明らも加わり、セットアップ変更を試みた。そんな車両を駆りコースインした阪口は、コクピットで驚きを覚える。細かいセット変更の積み重ねだが、見違えるほどパフォーマンスが向上していた。阪口は一度ピットインした後、再度コースインすると、5周目に1分25秒038と、フリー走行から2秒以上タイムアップを果たしてみせた。Q1 のB組では2番手。これまでの予選での不振が嘘のような快走をみせた。

阪口、Q2へ



続く Q2 では、阪口はさらなるセットアップ変更を行いアタックに入っていく。ただ、この変更でどちらかといえばフリー走行のときのフィーリングに近づいてしまい、Q1 よりもタイムは伸ばせず。1分 25 秒422 というタイムで、結果としては 11 番手となった。 とはいえ、この変更による違いも新たな気づきとなった。開幕前のテストから苦しんでいた阪口にとっては、大きな光明が見える公式予選となった ――。

決勝 5月22日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ

5月21日(土)に行われた公式予選では、フリー走行で大きな手ごたえを感じていながら、予選 Q1 でうまくタイヤをウォームアップできない不運で、まさかの Q2 進出を逃してしまった坪井翔。一方で、阪口晴南は予選で大きくポテンシャルを上げ Q2 に進出、不振脱却への光明を見出した。

激しい攻防戦の中クラッシュが発生

フリー走行の後も快晴に恵まれ、気温 24℃／路面温度 44℃という初夏の暑さのなかで迎えた午後2時 30 分からの決勝レース。それに先立つ8分間のウォームアップで坪井は修復されたマシンの確認と、できる限りの決勝セットの確認を行い、レースに臨んだ。迎えたスタートでは、11 番手からスタートした阪口は好スタートを切る一方、13 番手スタートの坪井はやや遅れてしまう。1周目、激しい攻防が繰り広げられるなかで3コーナーでクラッシュ車両が発生し、レースはいきなりセーフティカーランとなった。1周目、阪口はポジションを上げ 10 番手、坪井は3ポジションダウンの 16 番手につける。フリー走行でセットを十分に確認できなかった坪井だが、そこまで感触は悪いものではなく、4周目にリスタートを迎えると、1ポジションアップ。5周目に突入する。坪井はさらに1~2コーナーにかけて #7 小林可夢偉に仕掛けていくが、「タイヤひとつ分車線があればブレーキが踏めたのですが……。粘りすぎてしまった」とタイヤに接触。#7 小林可夢偉はスピン、クラッシュしてしまった。二度目のセーフティカーランとなるが、坪井もフロントウイングにダメージを負い緊急ピットイン。この接触で、坪井にはさらにドライブスルーペナルティも科されてしまった。

待望の初ポイント

これで坪井は大きくポジションを下げてしまうが、一方でポイント圏内を争っていた阪口は、フリー走行からのセット変更が功を奏し「今まででいちばん」という好感触のもと、セーフティカーラン明けにピットイン。アンダーカットを狙った。リスタート後もしっかりと中団圏内を争うポテンシャルをみせ、ライバルたちのピットインとともに順位も上がっていく。34 周目、全車がピットインを終えると、阪口の順位は8番手。4番手からは僅差の争いとなっていたが、このあたりの集団は阪口同様序盤にピットインしたグループで、タイヤをなんとか保たせながらの終盤戦となっていた。そんななかでも、阪口はしっかりと最後までペースを保ちフィニッシュ。8位に食い込み、今季開幕2大会での不振を払拭する待望の初ポイントを獲得した。一方の坪井は、16 周目にペナルティをこなし、31 周目にタイヤ交換を行うと、翌周に1分 28 秒900 をマーク。レース終盤は好フィーリングとともに前とのギャップを詰めながら、13 位でフィニッシュした。



GET!! 応援グッズ付き観戦券発売中!!
チームグッズと観戦券がセットになって登場!!
セルモ・インギングをGETして応援しよう!!
セルモ・インギングからはオリジナルマスクが発売!!
※画像はイメージです

@INTERVIEW 阪口 晴南 39 号車 ドライバー

前進していることを感じた



フリー走行では、ユーズドタイヤでの変化などをエンジニアに確認してもらいましたが、その甲斐もあって決勝ペースでは昨年から通じてもいちばん良いくらいの感触になっていました。ポイントも獲得できましたし、かなり前進していることを感じることができました。ただ、今回『なぜここまで前進できたのか』をしっかりと確認しておかなければ、また予選日の走り出しのようになってしまいます。しっかりと自分たちのなかに落とし込んで、次戦に繋げたいと思っています。とはいえ今回の結果は今後が期待できる結果でもあり、内容でもありました。自信にもなりますね。ここから上積みができるように、次戦以降もさらに頑張っていきたいと思います。



次戦に繋げる

Sena #39 SAKAGUCHI



坪井 翔 38 号車 ドライバー

流れが悪い週末

本当に流れが悪い週末になってしまいました。フリー走行もロングランの確認ができず、ウォームアップでわずかに確認できアジャストしましたが、レースを走り出してみたら、やはりもう少しアジャストしたいところはありました。とはいえペースはそこまで悪いわけではなく、なんとかポイントを獲ろうとオーバーテイクを仕掛けましたが、2コーナーで小林可夢偉選手と接触してしまって。結果的にうしろにいた立場ですし、ペナルティももらってしまいました。本当にもったいなかったです。タイヤ交換後のペースはすごく良かったですし、何もなければポイントは獲れていたかもしれません。予選からこの流れが始まってしまったので、直さなければいけません。

本当にもったいなかった

Sho TSUBOI #38





Yuji TACHIKAWA チーム監督



立川 祐路

得たものは大きい

阪口選手は今季苦しんでいましたが、予選から復調の兆しがあり、決勝でも戦えるレースができたので良かったです。得点もできましたが、それ以上に得たものが大きかったですね。この先に向けて良い手ごたえがあったので、次戦さらに進めたいです。一方で坪井選手は、今週走り出しから調子が良かったにも関わらず、力を出し切れずに終わってしまいました。フリー走行でもトラブルがありましたし、レースでも接触と難しい展開となりました。ペナルティも受けてしまい、小林可夢偉選手には申し訳ないと思っています。残念なレースになりましたが、力はあるので、流れを掴み結果に繋げられるようにしなければいけません。応援ありがとうございました。

To be Continued...

総評 レースにタラレバは禁物だが、このポテンシャルがあり予選でしっかりとアタックし、アクシデントがなければ入賞はおろか、表彰台争いができていた可能性は高かっただけに、坪井にとっては悔しい週末となった。

38 坪井 翔 予選 13位 決勝 13位 / 39 阪口 晴南 予選 11位 決勝 8位

Today's Race Rd,5 — SPORTSLAND SUGO 6.18SAT/19SUN